

浦安とみおか川柳会

四月例会結果

日時： 令和4年4月12日(火)
 出席者： 真田宣子、塩見和昭、谷口勝、
 長谷川智、三浦みちえ、光永ひかる、
 森山裕子、山岸順、山口しだれ、山口昇柳

講師： 佐藤青樹

点数

講師
推奨師

課題「沸く」互選 講評*佐藤青樹

12

● 沸点の違うあなたと半世紀

みちえ

半世紀ですから、沸点の違うところをお互いに
 認め合い愛しあっているのでしょうか

6

● 四回半挑む気迫にリンク沸く

和昭

スケートの羽生結弦君の挑戦。素晴らしかったですね

5

● 新芽出し地より湧き出す強い意志

しだれ

「沸く」◎と「湧く」◎は少々意味が違うのでは？

4

● 青春を真っ赤に染めたビートルズ

ひかる

◎水が熱せられて湯となる◎地下水などが地中から出る

3

● 浮かぬ世を美帆の快拳が浮き立たせ

和昭

上五の「浮かぬ」と下五の「浮きたたせ」の対比で決まり

2

● 沸点の下がり短気の虫眠る

勝

参考：沸点の下がり短気の虫が寝る

2

● 鉄瓶のお茶はまつたり母の味

みちえ

「まつたり」と「母の味」で決まった句
 お母さんのお茶はまろやかでこくがあり、独特の味わいある

2

● グツグツグツおでんのおい独り占め

宣子

「独り占め」しているのは台所で料理しているお母さん？
 もう少し絵が見えるように

2

● 寒空の花火見上げて震え止む

智

寒空の花火に興奮して震えが止まったのでしようね

2

● 傷病の保険入金家族沸く

智

参考：寒空へ震えをとめる大花火

2

● 家族沸く」に一考を

智

参考：家計簿が喜ぶ父の保険金

2

● にわかファンその時々がマイブーム

ひかる

何のファンかわからない、その時々で熱狂夢中となるのか

● 無観客五輪に沸いたテレビ席

裕子

参考：無観客テレビが五輪盛り上げる

● ことこの小豆いきなり吹きこぼれ

みちえ

絵が見えますね。ちよつと目を離したのでしようか

● 最終回二死満塁に血が騒ぐ

勝

攻撃側は「いけいけ」守備側は「はらはら」でしようか

● 大相撲近頃見ない布団投げ

旅人

一人横綱、しかも休場では、そうですね

● 煽られてヤカン頭に湯気が立つ

勝

「ヤカン頭と湯気」が効いて面白くできました

選者によっては「もじり句」と取られないか

● 観喜沸く夢がメダルに変わる冬

ひかる

参考：表彰台首に夢見た金メダル

● さわぎたいさぼりたくないポランテア

昇柳

参考：生き甲斐を見つけたばたせずに生き

● お茶タイムケトルの笛が呼んでいる

順

「ケトルの笛が呼ぶ」で絵が見えていますね

● ときめきのリンクも凍る飛べぬ蝶

和昭

「飛べぬ蝶」は怪我をして出場できなかつたのでしようね

● 応援はご法度見るだけの試合

旅人

参考：見るだけで応援させぬオミクロン

● 一目惚れ胸の血潮が踊り出す

裕子

わかるわかるの句で、その後はと聞きたくなる句

● 軽石が沸いたスベスベ足の裏

昇柳

軽石が「沸く」は「湧く」では。「湧いて」がよいのでは

参考：軽石が湧いてスベスベ足の裏

課題「覚悟」二人選 山口しだれ選

秀	客	人	地	天	軸
吹っ切れて覚悟の風が心地よい 過去捨てて自分探しの未知の旅 別腹は無いと覚悟のダイエツト 年会費払い始めたダイエツト 覚悟して臨んだ富士へ足が拒否 副反応覚悟のうえで接種する 残照のこれで見納め古里の旅 延命はしない覚悟がゆらぎ出す 癌になり余命告げられ礼を言う 凡人の鯉にはなれぬ手術台 百歳へ日々を頑張る歩数計 プロポーズ受けて覚悟の共白髪 故郷の縁を断ち切る墓じまい	ひかる 和昭 裕子 勝 みちえ 智 和昭 順 勝 和昭 裕子 ひかる 順	突然の喉の詰まりへ死の暗示 熟考し同居遠慮へ自由取る ゼレンスキー暗殺覚悟ロシア戦	自由吟	森山裕子選	ぶつかるぞ歩きスマホへ睨みたい コーラスのコロナに負けぬおもてなし 手料理の愛を隠した指のキズ 侵攻を開放と呼ぶ独裁者 来ぬバスを桜吹雪の中で待つ 前例を楯に役所の無責任 考える前にスマホが答え出す

課題「覚悟」二人選 山岸 順選

秀	客	人	地	天	軸
ゼレンスキー暗殺覚悟ロシア戦 別腹は無いと覚悟のダイエツト 定年後年金のみで生かされる さわやかに生きる覚悟の米寿老 覚悟して臨んだ富士へ足が拒否 副反応覚悟のうえで接種する 出る杭はやがて覚悟の花が咲く 平穏が宝と悟るコロナの世 プロポーズ受けて覚悟の共白髪 突然の喉の詰まりへ死の暗示 過去捨てて自分探しの未知の旅 百歳へ日々を頑張る歩数計 凡人の鯉にはなれぬ手術台	しだれ 裕子 智 昇柳 みちえ 智 ひかる 裕子 ひかる 裕子 和昭 しだれ 和昭 裕子 和昭	地球のためにならケチになる覚悟 故郷の縁を断ち切る墓じまい 延命はしない覚悟がゆらぎ出す	自由吟	消しゴムで腹の黒さは落とせない 消しゴムの跡がみられる立志伝 父親の無い子を増やすプーチン氏 お茶の間で焦土ライブを見る非情 憂い捨てて喜び拾う生き上手 侵攻が昭和の闇を揺り起こす 一杯のモカに遣る気を取り戻す 今日のウツ溶かしてくれる夕茜 明日へと今日を湯船に流し去る	

例会のお知らせ	日時 令和4年6月14日(火) 13:00~16:00	「犬吠」4月号 掲載会員句	若き日のライバル今は終の友(勝)
	場所 富岡公民館		ライバルのハグが嬉しい優勝旗(みちえ)
	課題 「洗う」 互選 :3句		丁寧に愛することも手洗いも(宣子)
	「永遠」 二人選 :3句		終章は自分の為に満ち足りて(しだれ)
	自由吟 :3句		米寿には昭和歌謡の元気生き(昇柳)
	<浦安川柳大会案内>		降雪もコロナも国の思うまま(和昭)
	令和4年7月16日(土)浦安市民プラザ		家中を縁に変えて脱炭素(順)
			転んでも挑み続ける夢の道(裕子)

川柳いろいろ

* 実作の手法（名句の条件と鑑賞）

世に名句といわれる有名な川柳、或いは優れた川柳がある。しかし優れており、しかも有名という句は意外に少ない。その中から名句の条件を探ってみよう。

アンケートで好きな句に選ばれたのが「ぬぎすててうちが一番よい」という

岸本水府

また智・情・意では「情の川柳」が圧倒的多数を占めた。

この名句の条件とは

- ① 五七五の正調である
- ② 句意が明瞭である
- ③ 訴えの共鳴度が高い
- ④ 訴えが時の経過に耐えている
- ⑤ 心の穏やかさがある
- ⑥ 一句の中に意外性がある
- ⑦ 臨場感がある
- ⑧ 表現に気どりと卑しさが無い
- ⑨ 語の組み合わせがありふれてない
- ⑩ ゆるい韻をふんでいる

推敲のポイント

- 1 自分の一番いい点が表示されているか
- 2 あれもこれもと詰め込みすぎではないか
- 3 こころよいリズムは整っているか
- 4 用語は適切であるか
- 5 余情・余韻はあるか
- 6 説明・報告になつていないか
- 7 言い古された着想ではないか
- 8 ひとりよがりになってないか

説明

- ① ② は説明するまでもない
 - ③ 多くの人は「うちが一番」という主張に共鳴
 - ④ 時代が移っても「うちが一番」は変わぬ感情
 - ⑤ 「ぬぎすてて」ホットする心の平穩をもたらし
 - ⑥ 川柳味ともいふべきものである。晴れ着の世界と普段着の我が家を比較、後者に優位与える。この立場の逆転はしばしば笑いを誘う
 - ⑦ 「一番よい、という」と会話形式をとることにより読者にその場にいるような感じを与える。
 - ⑧ どの語も日常用いられている言葉である点では、俗に違いない。雅な言葉ではないから気取って肩凝ることがなく、逆に卑しい表現でもないことが人口に膾炙される条件であろう。
 - ⑨ 意外に見逃されているが、上五が動詞で始まる句はまれである。「ぬぎすてて」と「いう」の二つの動詞が句を生き生きとしたものにして、さらに「ぬぎすて」は「ぬぐ」と「すてる」の複合語であり強いイメージを与える。
 - ⑩ 耳あたりのよさである。我が国の定型詩は形式のみを重視し、西洋の詩のような音声の長短、アクセントの強弱、子音・母音の配列などの形式を取り入れることはほとんどない。しかしこの句の十七音はゆるい韻を踏んでいる。こうして見てくると一見平凡な句は、川柳として完成度の高い句であることがわかる。
- 時代が下がって現代川柳の森中恵美子さんの句「子を生まぬ約束で逢う雪しきり」はどうか。④⑥⑦がポイントといえる。
- ④での共感「子を生まぬ」。形式的なことなら婚姻関係を結ばばよいのであるが、そうはできない男女が世にたくさんあり、いつの時代にもあるという事実がこの句に迫力を待たせる。
- ⑥意外性は条件付きの逢瀬にある。しがらみの中のひたむきな愛、日本ドラマの構成なのである。
- ⑦臨場感に吹きしきりの「雪」がもってこられてる。

鑑賞 犬吠賞 平成二十七年

大賞

太田ヒロ子

準賞

川崎火呂志

竹下圭子

新人賞

林 あい

佳作

川名信政

断捨離ともつたないがバトルする

五点

姥捨てに入山料の上中下

川崎雅生

辻棲を合わせて今日も日が暮れる

平蔵 柊

再びゼロに戻っていく月日

五十嵐幸夢

世辞笑いしたら味方に数えられ

川口雅生

ノーモアの70年が煮崩れる

柴垣 一

自分史の一章ごとに透ける悔い

宗吉みちお

四点

九条の疲れを知らぬ平和主義

老沼正一

忘れるということがあり生きられる

吉野千枝子

認知症母はたたかう宇宙人

林 あい

鯛雲手を繋いでもいいですか

藤ノ木辰三郎

政治への不満わたしに言う夫

薬師神とし子

女にもおんなにもなる年の功

高橋敬三

生きていくだけでうれしい友が居る

米島暁子

振り向いて欲しくて笑顔整える

小田春奈

雪国の闇を知っている雪だるま

中島宏孝

有りのまま生きて化粧のない心

名雪凜々

消費税上がらぬうちの無駄遣い

小池カズ坊

渋滞の先で待っている母の顔

加茂英代

互選句 課題 「初心」 令和四年 五月例会

浦安とみおか川柳会

18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
子の未来あれこれ思う母子手帳	高速で若葉ともみじのカーチェイス	自分史を書き出し初心思い出す	つまずくと初心に還る師の教え	免許とり若葉マークで事故恐れ	道半ば熱い思いを胸に聞く	幾つでも始めの気持ちすぐ忘れ	入社式日本を背負って立つ気概	神様に決意伝える五円玉	お茶稽古初心忘れてマンネリ化	金バッチ初心忘れて舟を漕ぐ	ふる里にこころざしだけ置き忘れ	親離れできぬ子供も成人に	太平洋横断の夢またトライ	靴ひもを結び直して新世界	古里に戻り不馴れな農を継ぐ	書き初めの初心の文字が上手くなり	足萎えて再度挑戦スクワット
36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19
								靴の紐きりりと結ぶ入社式	四度目のチャレンジをする英会話	本棚に初心だらけの入門書	習い事三日坊主で月謝無駄	カプセルに埋めた決意掘り起こす	ゴミ捨てる場所もわからぬ退職後	病名へ初心に返り再検査	本が好き昔ダンサー今作家	外筭高価忘れて雑使い	日々追われ初心どこかへ置き忘れ